

A・MUSEUM

vol.22



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



クマバチは大型のハチですがとてもおとなしい性格です

代表種は普通種－茨城のむしー

茨城県は、千葉県、沖縄県に続く低標高県で、最高峰でも八溝山^{やみざん}の1,022mにすぎません。一般的に「日本の国土は山地の占める割合が多く…」と言われるから、それとは反対に山が少なく平野部の占める割合が大きいということは、茨城県の昆虫相を見るときも大きな要素となります。

今回紹介する2種は、いずれも博物館の野外で撮影したものです。これらは、町中でも容易に見られ平地を代表する昆虫です。

クマバチ *Xylocopa appendiculata* は、胸に黄色毛を密生する大型のハチです。春先は藤の花に訪れているクマバチをよく見ることができます。ちなみにスズメバチの仲間のことを、クマンバチと呼ぶことがあります。

ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* は、翅^{はね}の先端が黒褐色の赤トンボです。成虫は6～11月に見られますが、秋になると博物館で最もよく見ることができるトンボのひとつです。
(資料課：久松正樹)



秋になるとノシメトンボの雄雌が連結して飛んでいるところをよく見ます

特別企画展

サーベルタイガーとミュージアムパーク開館5年のあゆみ

ロサンゼルス博物館の宝 日本初公開

2000年1月22日(土)～2月27日(日)

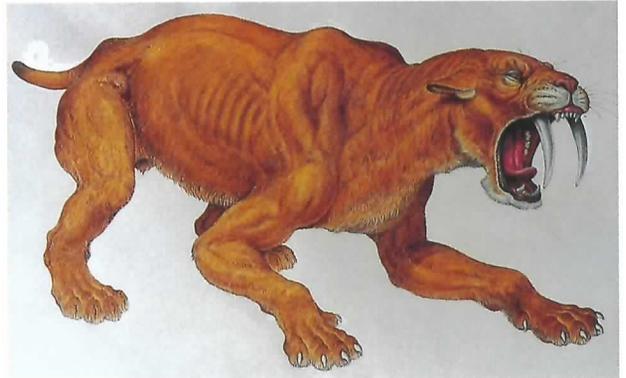
平成6年（1994年）11月13日に開館した茨城県自然博物館は、去る11月で5年という節目の年を迎えることができました。皆様からの暖かいご支援があつてのものと、職員一同心から感謝しております。ところで今回の5周年を記念して、当館の姉妹館であるロサンゼルス郡立自然史博物館より、サーベルタイガーの実物骨格がやってきます。この世界的に貴重な標本を公開すると共に、博物館5年間のあゆみを振り返り、来るべき新しい世紀でのより充実した博物館活動を展開するための決意したいと思います。

(教育課：山崎晃司)

サーベルタイガーとは？

数万年前に絶滅したネコ科の肉食獣で、上顎の犬歯が特異的に発達し、その形状がサーベル（洋剣）に似ていることから、剣歯猫、あるいはサーベルタイガーなどとよばれています。

今回の展示は、ロサンゼルス郡立自然史博物館の協力で実現するもので、世界に数体しか現存しないサーベルタイガーの全身骨格（実物化石）を、日本初公開するものです。



サーベルタイガーの復元想像図 ©平沢茂太郎

主な展示内容

第一部くサーベルタイガーの世界>

- サーベルタイガーの全身骨格標本
- サーベルタイガーの秘密にせまる
- サーベルタイガーと共に生きた動物たち
- タールピットの謎など

第二部く開館5年のあゆみ>

- 海外姉妹館締結
- 海外調査研究（企画展調査など）
- 国内調査研究（茨城県内の自然史調査など）
- 環境学習ネットワーク推進事業
- 教育普及事業（自然観察会、移動博物館など）
- 企画展のあゆみ、自然写真ギャラリーなど



到着したサーベルタイガー実物骨格標本



平成10年6月、博物館を活用した環境学習に関する日米シンポジウムが開催されました。



県内の自然史情報に関する蓄積が、各学芸系職員の調査研究テーマに沿って進められています。写真は、ハクビシンの体計測風景。



平成11年5月22日、開館後1,353日で、入館者数が250万人に達しました。

記念講演会

サーベルタイガー・絶滅の謎に迫る！

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 講師：J.M.ハリス博士
(ロサンゼルス郡立自然史博物館) | 対象：小学5年生以上 |
| 日時：平成12年1月23日(日)
午後1時30分～2時30分 | 定員：先着150名
(事前に電話でお申込み下さい) |
| | 参加費：無料 |

研究ノート◎鬼怒川河川敷の植物

今年度、植物研究室では分野別研究として、鬼怒川河川敷のフロラ調査を実施しました。フロラ調査というのは、どこにどのような植物が生育しているのかを調べていくことです。調査は、鬼怒川の茨城県部分（下館市から守谷町まで）を対象に、5月～6月に5回、10月に2回の計7回実施しました。小貝川・桜川についても、以前に同様の調査を実施しており、それぞれの河川的环境を考慮しつつ、フロラを比較検討していければと考えています。データの整理はこれからの仕事ですが、いくつかの興味深い植物が確認されましたので、紹介したいと思います。

●鬼怒川を特徴づける植物

以下の2種は鬼怒川ではごく普通に見られて、他の場所ではあまり見ることのできない植物です。

カワチシャ（ゴマノハグサ科）

Veronica undulata



越年草で、5～6月にかけて、多数の小さく白色の花を穂状につけます。鬼怒川の河川敷ではいたるところで生育が見られます。

オオカワジシャ（ゴマノハグサ科）

Veronica anagallis-aquatica



ヨーロッパからアジア北部原産の帰化植物です。カワチシャによく似ていますが、花が青みを帯びやや大きいのが特徴です。カワチシャと全く同じような所に生育し、住み分けをしているようには見えません。

●海岸要素の植物

鬼怒川の河川敷は、現在は表面にどろが積もっていますが、もともとは砂地です。生育環境が類似しているためか、丹念に調査すると、海岸性の植物を見つけることができます。

ハマエンドウ（マメ科）

Lathyrus japonicus



海岸に咲くハマエンドウ ©須田直之

多年草で、4～7月にかけて紫色の花をつけます。石下町と水海道市の2カ所で生育が確認されました。

コウボウシバ（カヤツリグサ科）

Carex pumila

多年草で、果実は4～7月に熟します。結城市、関城町そして石下町において生育が確認されました。

マルバアカザ（アカザ科）

Chenopodium acuminatum

1年草で、肉厚の丸い葉が特徴です。水海道市で生育を確認しました。

イガオナモミ（キク科）

Xanthium italicum

原産地不明の1年草で、本州と九州に帰化しています。水海道市で生育を確認しました。

●希少植物

今回の調査では、環境庁のレッドリストに記載されている植物が、前出のカワチシャ（準絶滅危惧）を含めて4種確認されました。

タコノアシ（ユキノシタ科）

Penthorum chinense



©野口多蔵

多年草で、8～10月に数本の花序を斜めにのぼし、多数の小さな花をつけます。これが、秋には赤くなり、まさに「タコの足」のようです。レッドリストでは絶滅危惧II類に指定されています。水海道市にまとまった群落があるのが確認されました。

ミゾコウジュ

Salvia plebeia

越年草で、5～6月に花穂を長く伸ばし、淡紫色の小さな花を多数つけます。レッドリストでは準絶滅危惧に指定されています。3カ所生育地を確認しましたが、いずれも個体数は多くありません。

コイヌガラシ

Rorippa cantoniensis

1年草もしくは多年草で、花序をつくらず、花が腋生する（葉の付け根の上に付く）のが特徴です。レッドリストでは、準絶滅危惧に指定されていますが、桜川や小貝川でも生育が見られ、本県南西部の河川敷では、決して珍しい植物ではありません。（教育課：飯田勝明）

展示品紹介◎小貝川周辺に見られる貴重な植物たち

ディスカバリープレイスの植物コーナーには、小貝川周辺に見られる貴重な植物が数多く展示されています。小貝川周辺は、希少植物の宝庫ともいわれ、絶滅が心配されている植物が多くみられるのが特徴です。右の表は、展示されている植物のレプリカ（複製標本）とそれらの現況を示しています。

これらの植物の多くは、かつて普通に見られた種ですが、護岸工事をはじめとする治水事業や開発の進む中、すむ場所を年々うばわれてきました。しかし、小貝川周辺に希少植物が多く見られるのは、自然の移り変わりや開発の手から守る地元の有識者や植物研究者のグループによる地道な活動があるからなのです。

「自然は祖先からの借り物」と言われます。私達は、これらの身近にある貴重な自然を、次の世代の子供達に引き継ぐことができるのでしょうか。この小貝川のコーナーをきっかけに、一人一人が自然保護について考える機会をもっていたできれば幸いです。
(資料課：太田俊彦)



ハナムグラ

植 物 名 (科名)	現 況
トネハナヤスリ (ハナヤスリ)	絶滅危惧ⅠA類… 絶滅の危機性が極めて高い
エキサイゼリ (セリ) NEW	絶滅危惧ⅠB類 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
シムラニンジン (セリ) NEW	
タチスミレ (スミレ)	
ハナムグラ (アカネ) NEW	
ヒメアマナ (ユリ)	
アサザ (ミツガシワ)	絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大していて、現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧種Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
サンショウモ (サンショウモ)	
タヌキモ (タヌキモ)	
チヨウジソウ (キョウチクトウ)	
デンジソウ (デンジソウ)	
ノカラマツ(キンボウゲ) 近日展示予定	
ヒキノカサ (キンボウゲ)	
フジバカマ (キク)	
マイヅルテンナンショウ (サトイモ)	
ミズアオイ (ミズアオイ)	
ミズワラビ (ミズワラビ)	
ミゾコウジュ (シソ)	準絶滅危惧…存続基盤が脆弱な種

※ **NEW**は、展示替えをしたもの (植物版レッドリスト 1997 環境庁)



ヒメアマナ

野外だより◎水鳥が浮かぶ菅生沼

花木の広場から、茶色に枯れ始めたヨシに囲まれて寒そうな菅生沼の水面を見ることが出来ます。今年もまたコハクチヨウが飛来してきました。静かに浮かんでいますが時折水面を蹴って飛び立っていく姿、首を伸ばして飛んでいく姿、足でプレーキをかけながら着水する姿などが見られます。その他にもダイサギ、コサギ、アオサギ、コガモ、マガモ、オナガガモ、カルガモ、カイツブリ、カワウ、イソシギなど百数十種類もの水鳥を観察することができます。また上空ではカモをねらうオオタカやハヤブサの姿が見ら

れることもあります。

この季節、屋上や花木の広場に設置されている望遠鏡のまわりがにぎわいを見せる時期です。館内でも、バードウォッチングカフェに設置されているスコープで見ることが出来ます。野外の自然発見工房では観察用の双眼鏡やフィールドスコープなどの貸し出しも行っています。

博物館の野外はいよいよバードウォッチングに最適な時期を迎えます
(教育課：橋本 武)



歳時記◎アオキ *Aucuba japonica* Thunb.

冬、筑波山に登ると赤い実を付けたアオキが目につきま。低木なので息を切らして登って行く人の目の高さにちょうど見えて来ます。特に冬は周りの木々が落葉している中で、木漏れ日に葉が青々と輝き、赤い実が鮮やかに映えるのです。遠目には一瞬どんな艶やかな花が咲いているのかと目を凝らしてしまいます。

アオキは、日本特産の常緑低木で、その名のとおり樹皮も葉も青く、学名の *Aucuba* も日本の方言アオキバがそのまま使われている植物です。つまり *Aucuba japonica* は「日本の青木」と言うことになります。また、アオキの仲間（属）は、変種を除くと日本にはただ1種しか見られませみよせん。

日陰のやや湿り気のある肥沃なところを好み、寒さに強く病気や虫害もほとんど無い植物です。したがって栽培が容易なため、園芸用あるいは観賞用として、日本だけでなく広く世界各地でも栽植されているそうです。

4月から5月にかけて目立たない小さな花をたくさん付けます。アオキには雄株と雌株があり、どの木でも赤い実が成るわけではありませんが、雌株ではその年の秋に小指の先ほどの緑色の実を付け、冬にはこれが赤く熟します。

植物調査のため、さく葉標本（押し葉標本）を作ると、決まって色が変わってしまう植物があります。アオキもその一つです。アオキの場合はアウクビンという成分があり、葉を切ったり押し葉にすると黒く変色してしまうのはこの成分のためです。

アオキは漢方薬としても知られ、葉を火傷、はれもの、凍傷などの治療薬として利用されるそうです。また、胃腸薬として有名な高野山の霊薬「陀羅尼助」を作る工程でも使われるとのことことです。

（資料課：中山静郎）



収蔵品紹介◎県内から産出するリチア電気石

久慈郡里美村に標高652mの妙見山みょうけんざんがあります。この山の中腹から、リチウム・ペグマタイトが発見されてから25年以上の歳月が過ぎようとしています。

リチウムペグマタイトは日本で4カ所の産地が知られていますが、産状を観察できるのは妙見山だけになってしまいました。そこで、今回はリチウムペグマタイトから産出するリチア電気石について紹介します。

電気石の由来は、摩擦したり熱したりすることによりわずかに静電気を帯びるため付けられた名称です。鉄を多く含む鉄電気石、マグネシウムを多く含む苦土くど電気石など、含まれている元素によって電気石は11種類のグループに分かれています。その中で、リチウムを主成分にしている鉱物をリチア電気石といい、透明度の大きくて美しいものは宝石として用いられています。ピンク色のリチア電気石にはトルマリン（ルベライトともいう）、緑色のものにはインディコライトという宝石名がついています。

妙見山から産出するリチア電気石は、



リチウムも鱗雲母（リチア雲母）の中に埋もれているため透明感の少ないのが特徴です。残念ながら宝石として用いることはできませんが、日本国内から産出したリチア電気石としては、貴重な標本であることには代わりはありません。

今回紹介するリチア電気石の色は緑とピンクですが、内側がピンク、外側が緑



色のウォーター・メロンと呼ばれるもののように、1個の結晶に2色あることが珍しくありません。

これらの標本は当館のディスカバリー・プレイスの入口に展示してありますので、是非ご覧頂きたいと思おもいます。

（教育課：都賀和男）

館職員レポート◎小幡 和男 (資料課, 植物研究室)

自然博物館では、私たち学芸員は資料課または教育課に属しています。私が属するのは資料課で、主に資料の収集・保存、調査研究、展示などの仕事を担当しています。一方学芸員はその専門分野で動物・植物・地学に分かれ、植物を担当する私は、植物研究室が毎日の主な活動場所となっています。

今回は博物館で私や植物研が担当してきた主な調査研究活動を紹介します。



法師戸水門からみた菅生沼
1995年空撮 小幡
堤防のすぐ内側のアカメヤナギ131株が伐採された。

博物館に隣接する菅生沼のことは一度来られた方ならどこかにはよく知っていることと思います。菅生沼は毎年晩秋になると数百羽のコハクチョウが飛来する野鳥の楽園といわれますが、湿地の植物たちにとっても残り少ない生育場所として大切にしなければならないところです。それは近年開発や護岸工事などで、これらの植物のすみかが各地で激減しているからです。

私は開館以来、植物研の仲間たちと菅生沼の湿地の植物について調査してきました。まず手掛けたのは、230haの菅生沼全地域で植物の分布や生育状況を調べ、空中写真を使って過去50年間の植物群落の変遷を読みとりました。その成

果は、1996年の菅生沼展、同年の日本生態学会、森林文化研究などで発表しましたが、このア・ミュージアム第9号にもわかりやすく解説しています。現在までに菅生沼では10種類以上の絶滅危惧植物が確認されていますが、その生育環境は決して良好とはいえません。その原因は治水事業による菅生沼の改変や生活で利用されることがなくなったことがあげられます。

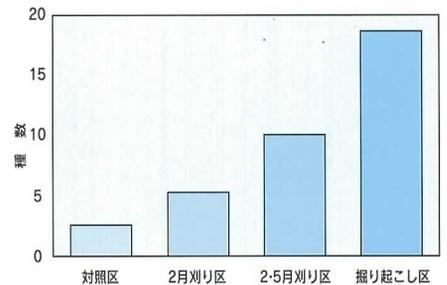
以前はヨシやマコモを刈ったり、沼のどろを採ったりして利用していました。そこで1996年～97年に沼の植物を刈り取ったり掘り起こしたりして、植物群落の変化を調べてみました。結果は、生えてきた植物の種類は激増し、絶滅危惧種のみズアオイや県内ではほとんど見られないオオアブノメという植物が現れたりしました。人とかかわりが沼の植物にとって大切な条件であることを教えられた気がします。このことは1997年の生態学会で発表しましたが、ア・ミュージアム12号でも紹介しています。



掘り起こしによって出現したオオアブノメ(左)とみズアオイ(右)
どちらも土の中に埋まっていた種子が発芽したものとされる。

そして昨年、沼の南端の法師戸水門の改修工事にともない、菅生沼を特徴づける大木のアカメヤナギが131株切られることになりました。大きなものは直径60cmを超えるものもありました。この工事に際し、建設省の協力を得て、伐採

されたすべてのヤナギの年輪を測定するため幹の円盤を採取しました。データがまとまればアカメヤナギ林の成立過程が推定できるはずですが、現在ボランティアの皆さんの協力を頂きながらその解析を進めています。樹齢は予想通り35年くらいのヤナギがたくさんできました。以前空中写真で読みとった、沼の水位が落ちてヤナギが生えだした時期と一致しました。詳しい結果は後ほど報告したいと思っています。



菅生沼で草(ヨシ)刈りや掘り起こしなどの処理を行うと出現する植物の種数が激増する。

現在植物研では、菅生沼から県南西部の河川・湖沼に生育する湿地の植物に目を広げています。第1次総合調査で霞ヶ浦、植物研独自の調査では桜川、小貝川、鬼怒川と調査を進めてきました。次の調査地は利根川を予定しています。

私たちは当分の間、生育場所の激減している湿地の植物に目をむけていこうと思っています。



アカメヤナギの年輪を測定しています。

コラム by director NAKAGAWA ◎竜と虎

早いもので、もう今年の最終号になってしまいました。ウサギの年が終わると、次の干支はタツ(辰)で、動物では「龍」を当てます。十二支の中では唯一実在しない動物ですが、中国では「聖獣」とされ、皇帝のシンボルとなっています。あれだけの大国の権威の象徴ともなれば、実在の動物一種で代表させることは困難で、事実、龍は鷹、虎、蛇、鹿、牛など9種の動物の複合体で成り立っているの

です。
龍の霊力の素晴らしさなのでしょう。か、龍が呼んだのでしょうか? かねてから懸案だった口サンゼルス郡立自然史博物館の至宝「サーベルタイガーの全身骨格」が突然、当館にやってきました。
古代中国の「四神思想」では龍は東、虎は西に位置します。龍だけでは様にならないのです。タツ年に「剣齒虎」がやってきて東西揃い踏み、来年はまさ

にエポックメイキングな年になるでしょう。



トピックス●9～11月

開館5周年記念ネイチャーウォークラリー大会 10月24日(日)

自然博物館開館以来初の試みであり、また初の大規模イベントである、ネイチャーウォークラリー大会が、博物館野外施設と、隣接する水海道あすなろの里を会場として行われました。当日は朝から天候にも恵まれ、澄みきった青空の下、11コース、約3,000名もの方にご参加いただきました。参加者の方々は、家族や仲間と豊かな自然に触れ、各地に設けられた問題を解きながら散策し、心地よい汗を流していました。



野外出口にインターホン設置

このほど、野外出口にインターホンを設置しました。これは、「野外出口の回転ゲートは、車椅子を利用している人が、介助人なしに通るのは難しい」というご意見に基づき設置したものです。今後も、より一層バリアフリー化を進め、皆さまにとって安心して観覧できる博物館を目指してまいりますので、ご意見・ご要望等ございましたら、館内投書箱「あなたの声」にお寄せいただきますようお願いいたします。



キャッチコピー募集優秀賞発表(11月7日)

開館5周年を記念して、自然博物館のキャッチコピーを募集いたしました。日本全国から1,837点のご応募を頂き、その中から以下の作品が優秀賞に選ばれました。受賞者の皆さんには、11月7日のアミューズデーの際に表彰式を行いました。(敬称略)

<館長賞>

「見て聞いて 触れてわくわく ミュージアムパーク」

中澤 たみ (茨城県岩井市)

<副館長賞>

「笑顔いっぱい、発見いっぱい、楽しさ百倍 茨城県自然博物館」

上野 静佳 (埼玉県久喜市)

「「また来ちゃったね、おとうさん」茨城県自然博物館」

大熊 稔 (東京都葛飾区)

<優秀賞>

「好きです自然、見ます、触れます、考えます。」

泉谷 敏夫 (大阪府堺市)

「学んで 遊べる ミュージアムパーク」

宮原 希依 (千葉県柏市)

「おばあちゃん 今度ほくがつれて行ってあげるよ ミュージアムパーク」

栗原 久子 (茨城県新治郡)



水系だより

自然博物館第三展示室では、多くの生きた魚を展示していますが、彼らは、いったいどんなものを食べているのでしょうか。今回は、魚たちの食事についてご紹介します。

飼育を担当する私たちが出勤後まずする作業は、餌の解凍です。魚たちの餌は、そのほとんどが冷凍されているものなので、解凍してから餌作りにかからねばなりません。冷凍品は、冷凍や解凍する途中で栄養分が失われたり、品質が変化したりという欠点もありますが、1年中安定した品質の餌を与えられる、寄生虫の

心配がないなどの利点もあります。現在、博物館で使っているのは、アジ、イカ、甘エビ、オキアミ、赤虫などで、これらを魚によって何種類か混ぜて与えていきます。アジやイカ、甘エビなどは、魚の口の大きさに合わせて三枚におろしたり、細かく切ったりして使います。また、水生昆虫などには、生きた小魚を用意します。

餌を与えるのは1日2回。多すぎないように、少なすぎないように、魚の食べる様子をよく見ながら与えていきます。体の不調を言葉で訴えられない魚にとって、

餌を食べないことが病気の早期発見につながることもあります。

(大洗水族館：大須賀陽子)



インフォメーション (1～3月の行事)

自然観察会

2月20日(日)

『地形の成り立ち(筑波台地と桜川)』

3月26日(日)

『土の中の不思議な虫たち(博物館野外)』

*集合場所・定員は観察会ごとに異なります。

自然講座(定員:40名)

2月6日(日) 13:00～15:00

『火山を探る』

(対象:中学生以上)

自然教室(定員:40名)

1月8日(土) 10:00～12:00

『里山の仕事を体験しよう』

2月12日(土) 10:00～12:00

『どんぐりで遊ぼう』

3月11日(土) 10:00～12:00

『石で遊ぼう』

(対象:小・中学生)

〔観察会等への申込方法〕

2週間前までに電話で申し込んで下さい。なお、希望者多数の場合は、抽選を行います(講座は先着順)。

また、本号発行時には受付を終了しているものもあります。あらかじめご了承ください。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
TEL 0297-38-2000

サンデー・サイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリープレイス内のスタディールームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。

テーマ

1月『顕微鏡で化石を見よう』

2月『魚のつくりを調べてみよう』

3月『種の不思議を調べよう』

時間 午前の部 10:30～12:00

午後の部 14:00～15:30

(12月～2月までは、午後の部のみです。)

受付 開始時間の1時間前から、スタディールーム前で受け付けます。希望者多数の場合は抽選を行います。

えいが会(定員:300名) [3階映像ホール]

1月16日(日)『ライオンキングII(アニメ)』

2月27日(日)『わが心の銀河鉄道』

3月26日(日)『星空のバイオリン(アニメ)』

上映時間 14:00～ 入場無料

自然なんでも相談

自然についてわからないこと、ふしぎだな、と思っていることなど、なんでも気軽にご相談ください。

相談方法 博物館あてに質問を郵送するか、直接ご来館ください。

相談日 1月9日(日)

2月13日(日)

3月12日(日)

場所 ディスカバリープレイス観察コーナー

時間 13:30～15:30

その他のイベント

1月23日(日) J.M.ハリス博士講演会

「サーベルタイガー・絶滅の謎に迫る」

(定員150名・事前申込要)

3月20日(月) サイエンスデー

「宇宙・科学の日」記念イベント

■ は休館日です。

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

〔交通案内〕



- 常磐自動車道谷和原I.Cから20分。
- JR柏駅で東武野田線乗り換え、東武野田線愛宕駅→茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分。
- 常磐自動車道谷和原I.Cから20分。



ご利用案内

〔入館料〕

区分	本館・野外施設	野外施設のみ
大人	510円(410円)	200円(100円)
高校・大学生	310円(210円)	100円(50円)
小・中学生	100円(50円)	50円(30円)

(注): ()内は団体料金(20人以上)

企画展開催期間中については別料金となります。

つぎの日の入館料は無料です。

●11月13日(茨城県民の日) ●3月20日(春分の日)

●4月29日(みどりの日) ●6月5日(環境の日)

●高校生以下の児童・生徒は、毎月第2・第4土曜日は入館無料です。(但し、春・夏・冬休み期間中を除く)

〔開館時間〕

午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

〔休館日〕

●毎週月曜日(祝日の場合はその翌日) ●年末年始

〔編集後記〕

11月27日から28日にかけて行われた、自然観察会「まっ白な天の川と晩秋の植物」に同行しました。残念ながら天

の川は見えませんでした。夕方見えなかった星も、願いが通じたのか夜中にはきれいに観察することが出来ました。日中は植物観察を行い、すっかり冬支度の

始まった山林を散策しました。また、参加した子供たちはみんなで一緒に遊び回り、参加者同志で親睦を深めていました。(N.I)

自然博物館ニュース A・MUSEUM(ア・ミュージアム)

企画・編集:ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課/発行1999年12月25日
〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地 TEL0297-38-2000
ホームページ <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>